

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日平成 25年 6月 10日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4672800044
法人名	医療法人誠心会
事業所名	グループホームあったかハウス市来
所在地	鹿児島県いちき串木野市大里3261番地1 (電話) 0996-36-5511
自己評価作成日	平成25年 2月 1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年4月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々と入居者様、そしてご家族様との交流を大切にし、その実現の為に、入居者様のペースにあわせた生活を支援する事を念頭に、その人らしく、生活できる様援助していきます。また、地域との交流も兼ねて、事業所敷地内にて、バーベキュー大会、秋祭りを開催しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### 【理念】

・「ゆっくり、ゆったり、けれども、しっかり」「あったか地域で、あったか交流、みんなでつくろう、あったかの輪」を理念に掲げ、入居者や家族に対する思い、地域との関わりを大切に考えたケアの実践に取り組んでいる。管理者は日頃から入居者の思いに耳を傾け、小さなことでも気付き、ケアにつなげられるよう職員に伝えており、職員間にも管理者の思いや理念はしっかり浸透している。

#### 【地域交流】

・事業所は地域交流や馴染みの人間関係等にも力を入れており、六月灯や七夕祭りなどの地域行事にも積極的に出かけるとともに事業所主催の行事も地域住民に参加を呼び掛けるなど、日常的に交流を図っている。また、地域の方からのお裾わけも多くあるため、行事の際には食事やお菓子をお裾わけするなどしており、地域の方から大変喜ばれている。

#### 【重度化・終末期について】

・重度化や終末期に向けた方針については、入居時に「重度化対応、看取り介護の指針」にて本人家族に詳しく説明し同意を得るとともに入居後も変化する本人や家族の思いを再確認するために「終末期における本人による同意、または家族等の推定する本人の意思について」において具体的な内容について説明し、あらためて同意を得ている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、ゆったり、けれども、しっかり」「あったか地域であったか交流、皆でつくろうあったかの輪」の理念の下で、毎朝の申し送り時に「理念」を職員一同で唱和し実践にむけ全員で取り組んでいます。	職員全員で考え作り上げた理念は、ケアへのすべての思いを詰め込んだ内容となっている。理念の中の「しっかり」という言葉は日頃の生活の中で入居者の様子をきちんと把握し、しっかり気づけるようにとの思いから盛り込んだ言葉である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加をお願いし、又事業所の年間行事にも参加して頂けるよう回覧等をお願いし、地域の方々との交流を図り、散歩や買い物の時地域の方と会話を交わしたり、お茶をご一緒したりと日常的に交流をしています。	六月灯や桜祭り、無形文化財である七夕祭りなど積極的に地域行事に出かけ交流している。地域で実施された災害時対応の訓練にも参加し一人暮らし世帯の把握にも努めた。日常的に散歩やドライブに出かけ、地域の方々と挨拶したり会話をしており、また、花や野菜のお裾わけを頂くなど地域との付き合いを大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	事業所での実践内容を踏まえて、地域の様々な研修、会合に関わりながら認知症のケアの啓発に努め、人材育成の貢献として実習生、福祉体験学習等の学生の受け入れも積極的に行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの内容や外部評価についての説明や結果報告を行い、行政・地域の方々の意見を聞き、その後職員全員で検討しサービスの向上に活かしています。	会議には家族や民生委員、婦人部長や公民館長、地域包括支援センターの職員らが参加しており、今後は消防署の方にも参加を呼び掛ける意向である。会議では外部評価の報告や目標達成計画についての説明もなされている。緊急時の連絡網に会議メンバーの名前を入れることなど具体的な意見や提案を積極的に話し合い取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に行政より毎回参加して下さっているため、関係が強化されています。周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いています。	運営推進会議にて包括支援センターの職員と話す機会があり事業所の取り組みや実情を報告している。また行政担当者とは介護保険証の更新や報告書提出時に顔を合わせている。ボランティア活動の受け入れなど行政からの情報や説明を受けるなど日頃から情報交換をし、協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月1回身体拘束廃止委員会を開催し、具体的な例を挙げ日頃の自分たちのケアに照らし合わせ身体拘束をしないケアに努めています。	身体拘束廃止マニュアルを作成しており、内部・外部研修にも積極的に参加し、報告確認し合っている。また、毎月のミーティングでは、必ず身体拘束廃止に向けた話し合いが行なわれ、職員が一丸となって身体拘束しないケアに向けて取り組んでいる。言葉による拘束についても日頃から意識して対応しており、方言についても方言の持つ役割や大切さを理解しつつも馴れ合いの関係にならないよう十分気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月ミーティングや勉強会等にて高齢者虐待防止法について学ぶ機会を多く持ち、日頃より職員同士の言動や行動に注意を払い、全員で防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	誠心会全体による勉強会等に参加し、自施設での勉強会により全職員に学ぶ機会を持っています。対応が必要と思われる利用者がある場合には、運営者の指示により説明、アドバイスをを行い支援できる体制が万全に整っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、事業所の考え方や取り組み、退居を含めた対応可能な範囲について説明を行っています。又、起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携の実際について詳しく説明し同意を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会、面会時等に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意しています。又、玄関にご意見箱を置いたりし、出された意見、要望等はミーティング等で話し合いをし運営に反映させています。	家族の面会時や家族会で意見や要望を確認しており、把握した内容を支援経過に記録し毎月のミーティング時に職員間で話し合っている。家族が遠方の場合は、電話で日頃の様子を伝えたり、担当職員が作成した入居者一人ひとりの様子について記録した写真や書類を郵送するなどして近況報告に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者と管理者との話し合いの機会も十分もたれ、サービスの質の向上に向けた意見交換がおこなわれています。出された意見、要望等は、毎月ミーティングや勉強会を行い反映させています。又職員より日頃から意見や要望等を言いやすい雰囲気作りを行っています。	職員が意見を言いやすくするよう、年に6回ほど食事会の場を設け交流している。職員の意見は、昼休みや朝礼、ミーティング時等日頃から意見を伝えている。また、必要に応じ個別面接も行ない職員一人ひとりの意見を大切に聞き取っている。把握した内容にはなるべく対応できるよう「主任研修会」でも話し合われている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎月研修会等を行い職員や職場の状況報告等を行い問題点を話し合い向上心を持って働けるように現場環境・条件の整備に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修、法人内研修、毎月の事業所内の研修だけでなく、事業所外の研修にも多くの職員が受講できるようにしており、研修報告もミーティングや勉強会にて発表し学習できる体制が整っています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所の見学や、他事業所の職員との意見交換や相談等をおこなったり、事例検討を通して、事業所外の人材の意見や、経験をケアに生かし、サービスの質の向上に役立てています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者、相談受付時、ご家族様、ご本人様から、契約時に可能な限り情報収集を行い、その内容を分析した上で、ご本人様の求めていることや、不安を理解し、共有することによって安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談受付時や、契約時に、ご家族様の求められていることや不安を理解し、共有することによって安心を確保するための関係づくりに努めています。そしてどの様な対応ができるか事前に話し合い、これまでのご家族様のご苦勞や、これまでの経緯についてゆっくり聞く様にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談を受けた時、入居者様やご家族様の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら、必要なサービスにつなげるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており普段から入居者様に教えてもらうことが多くあります。入居者様と一緒に色々な事をしながら、穏やかな生活が出来る様な場面づくりや、声掛けをおこなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様のご家族様に月1回様子や写真を添えてお手紙を送付し、必要に応じて電話をさしあげたりし、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、ご本人様を支えていくための協力関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の一人ひとりの生活習慣を尊重し、これまでの経験を生かした暮らしが出来るよう支援しています。また、お墓参りや、馴染みのお店に行かれたり、地域で暮らしておられる知人、友人様に、お手紙や、お電話をし、継続的な交流ができるよう支援しています。	本人を取り巻く人間関係については、入居前のアセスメントにより詳しく聞き取り「相談受け付け表」に記録され職員間で情報を共有している。美容室やお墓参りなど本人の希望により積極的に外出支援している。電話は入居者が自由に使えるようにしており、居室でゆっくり会話できるようにと子機を用意している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事、レクリエーションの時間に多くの会話を持ちみんな楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせるような場面づくりをするなど、入居者様同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も、行事に招待したり、遊びに来てもらうなどし、ご家族様からの相談にのったり、継続的な付き合いができるように心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で、声かけをし把握に努めています。日常生活の中での会話や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしています。又、意思疎通が困難な方には、ご家族様や関係者から情報を得るようにしています。	共に生活する中で見せる表情や態度、声の調子など、日頃から小さな気付きを見つける努力をしており、思いをうまく伝えられない方については、家族や地域の方からの情報も参考にしながら思いの把握に努めている。把握した情報は、支援経過に記録し重要な部分は色分けするなど工夫している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、入居者様、ご家族様としっかりお話し、十分なアセスメントを行い、これまでの暮らしの情報や生活環境についてお聞きし、どのような生活を送られていたのか把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個々の状態を把握し、声掛けなどによりご本人様の意欲を引き出し、出来ない事、出来る事に注目し、その人全体の把握に努めます。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを含め、職員全員でカンファレンスを行い、個別性のある、1人1人のニーズに合わせた介護計画を作りあげるように努めます。	介護を担当する職員が、毎日介護計画が実践できたかを確認しており、実践が困難であったり、状況に変化がみられた場合は随時介護計画の見直しを行ない、担当者会議を経て利用者や家族に計画を交付している。担当者会議には利用者や家族のほか、主治医にも参加してもらうなど、現在の状況と今後のケアについての具体的な話し合いが行なわれ介護計画に反映させている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日モニタリングを実施し、職員の気づきや入居者様の状態変化は、個々の記録に記載し、職員間の情報の共有をしています。又、状態が変化した際には、見直し以前であってもカンファレンスを開催し、新たな介護計画を作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の中で利用者様一人ひとりのニーズに対応した支援やサービスに取り組んでいます。また、利用者様やご家族様のご希望等に応じて多機能について説明等を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や、伝統行事に参加したり、学校関係からの訪問があり、運営推進会議の場でも周辺施設からの理解・協力が得られるように取り組んでいます。又消防訓練や、緊急時のために、警察や消防に協力を得ています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、ご家族様と協力し、入居者様や、ご家族が希望するかかりつけ医となっています。主体が病院なので医療連携はもちろん、適切な医療が受けられるように支援しています。	「相談受け付け表」に入居前のかかりつけ医を記載しており、家族と協力し合い病院受診を支援している。受診時の記録は「介護計画」と「支援経過」に記載しており、朝礼やミーティング時に受診内容を確認するとともに家族には電話や面会時に報告するなど情報交換を密に図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師も配置しているが、他、訪問看護と連携し、日頃の健康管理や医療面での相談、助言を行ってもらい、職員と、訪問看護師とは気軽に相談できる関係が出来ており看護師と医療機関との連携も密にとれる体制が確保されています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人様への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしています。また、ご家族様とも回復状況等情報交換しながら、速やかな退院支援に結びつけています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期看取りに関する説明を行い、ご家族様の希望があれば終末期に向け入居者様、ご家族様、主治医、看護師、職員全員で方針を話し合うようにしていますが、まだ終末期を施設で希望する方はおられません。	入居時に「重度化対応、看取り介護指針」にて説明し、本人家族の意向を確認するとともに「看取り介護についての同意書」を取り交わし同意・承諾を得ている。また、利用開始後も状況の変化とともに本人家族の思いも変化する場合があるため、「終末期における本人による同意または家族等の推定する本人の意思について」において、再度終末期に対する希望を確認し同意を得るようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、勉強会に救急手当や蘇生術等の実技を取り入れ、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回（内一回は夜間想定）入居者様、消防署の協力を得て、地域の方と一緒に避難誘導訓練を行っており、地域協力体制について、運営推進委員会や連絡網にも記載し協力をお願いしています。又当事業所を含めグループ全体で、非常食の備蓄もしており、入居者様や、地域の方々の防災の一助けとなれるように努力しています。</p>	<p>災害対策マニュアルを基に年2回避難誘導訓練を実施している。訓練には利用者や家族、運営推進会議のメンバーのほか、地域住民の参加も多数得られており、地域との連携・協力体制が整えられている。備蓄については、災害時の拠点にもなるよう、飲料水や食料のほか、ラジオや防災無線、防寒用具など十分量確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの尊厳を重んじ、入居者様の誇りやプライバシーを損ねない対応や、個々に合わせた言葉使いを心がけるよう勉強会やミーティング時に、全職員に周知しています。	年に3回程度、人格の尊重やプライバシーを含む研修会を実施し、ミーティング時にカンファレンスを行ない具体的ケアにつなげている。特に最もプライバシーに関わる排泄に関しては、さり気なく声をかけ対応するとともに動作時の安全にも配慮するなど徹底したケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、入居者様の言葉、行動等により、希望、関心、嗜好を見極め、利用者が選びやすい場面を作ったり、入居者様の意志を尊重するように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて生活ができるように、お一人お一人の体調に配慮しながら、その日、その時の本人様の気持ちを尊重して、出来るだけ個別性のある支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	更衣は、入居者様の意向を尊重し、必要な方には、職員も一緒に考えたりと、入居者様の気持ちに添った支援を行っています。理美容については、ご本人の希望に合わせたカットや毛染めをしてもらえるよう、連携をとっています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に同じテーブルで食事をし、楽しく、ゆったりと食事をしていただいております。個々の好き嫌いや、食事形態等把握し心配りをしています。又入居者様と一緒に準備や食事の後片付けをしています。	基本的には管理栄養士が献立を立てるが、地域の方からの差し入れなども多いため、旬のものを取り入れた食事メニューに変更することもある。調理の下ごしらえや調理、配膳下膳など一連の工程を入居者と職員が共に行ない、同じ食事をテーブルを囲み、会話をしながら楽しく食事をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を毎回チェックし、職員全員が入居者様の食事状況を把握できるようにしています。状態によっては、職員で検討したり、管理栄養士に相談して食事形態を変更するなどの工夫を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後見守り、介助にて、入居者様の力量に応じて口腔ケアを行っています。また、訪問歯科により、舌・義歯洗浄や口腔ケア及びケアの重要性や、技術等について指導をして頂き、研修を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様の個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や介助を支援しています。尿意のない入居者様でも時間を見計らって誘導する事により、トイレで排泄出来るよう支援し、ご本人様の意思を尊重し、自立に向け支援しています。	「介護記録」に排泄チェック項目を設け、時間を見計らってトイレ誘導したり、トイレに行きたい素振りなど気付いた時は、その都度トイレ誘導している。パットやリハビリパンツは、入居者の体調等に応じて組み合わせに変化を持たせるなど、臨機応変に対応している。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や、散歩、軽体操等により自然に排泄できるように取り組み、必要に応じて医療連携により主治医に相談し快適な日常生活が送れるようにします。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴のご希望をお聞きし、状態等を把握して入浴していただいています。入浴を拒否される利用者に対しては、言葉掛けや対応の工夫、チームプレー、ご家族様の協力を得ながら、個性にも配慮しています。	入浴したい時間にいつでも入浴でき、体調等に応じてシャワー浴や足浴などに切り替え対応することもできる。入浴したくないと言われた時は、入居者個人に合わせた言葉かけを基本に、タイミングを見計らいながら入浴に誘い、同性介助にも配慮しながら入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々のレクリエーション、行事等へ参加して頂き、日中の活動量を多く取り入れ、安心して眠れる環境づくりにて、夜間の安眠につなげています。寝付けない時には一緒に添い寝したり、おしゃべりをする等配慮しています。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬内容、容量等きちんと理解出来る様処方箋を利用者毎に整理し、一週間単位で内服は管理されています。服薬は、きちんと本人様に手渡しし、きちんと服用されています。又服薬後も異常、変化がないか注意をはらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の好きなことの確認をし、なるべくその気持ちに添えるよう努力し、園芸、料理、手芸その他の活動の中で、お一人おひとりの力を発揮できるように場面作りをし、その後感謝の言葉をかけるように心がけています。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者様の気分や希望に応じて散歩、買い物、ドライブ等に出かけ季節を肌で感じてもらい心身の活性につなげるよう支援しています。	事業所は可能な限り外出する機会を作りたいと考えているため、日常的に買い物や散歩、ドライブ等の機会をつくり外出を支援している。また、個別の外出の希望にも極力対応できるよう職員を調整し支援している。外出の難しい方でも一緒に屋外行事を楽しめるようリフト車で外出を支援している。また、家族による外出も積極的に進められてもらいたいとの思いから、車いすの貸出しも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物に出かけた場合は、入居者様ご自身でお好みのものを選んでいただいたり、お支払いをしていただいたりして、買い物を楽しんでいただけるよう、また自己決定により自信を持っていただけるよう支援しています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族様、知人等に電話しやすい雰囲気をつくったり、会話が他の入居者様に聞こえないように子機を使って自室にて話していただくなど配慮したり、毎年年賀状や暑中見舞いを書いていただいたり日常的に電話や手紙を出せるよう支援しています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を感じて頂けるようなコーナーを設けたり、生活の臭いを感じて頂けるよう工夫しています。フロアーの飾りつけや、家具の配置は、入居者様と一緒に考え、入居者様が使いやすい工夫をしています。</p>	<p>明るく開放的な玄関を入ると入居者の作品や花が飾られており、温かな印象を受ける。フロアーには畳スペースが設けられ、入居者や家族等の来訪者がゆっくりくつろげる環境となっている。トイレや浴室等の共有空間は、気持ちよく使ってもらえるようにと日頃からきれいに整理されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアーに椅子や、ソファー、テーブルを置き、個々自由にくつろいだり、仲の良い入居者様同士でくつろげるスペースを確保しています。又入居者様にとって使いやすい配置や馴染みの物を取り入れ家庭的な雰囲気になるように心がけ、おやつや壁飾りは、入居者様と一緒に考え季節感のあるものにしていきます。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、ご家族様の写真、ご仏壇、ご位牌、他馴染みのある物を置いたりして、ご本人様が、居心地よく過ごせるような工夫をしています。</p>	<p>エアコン、ベッド、クローゼット、タンスは備え付けになっており、寝具は衛生面に配慮しレンタル品を使用している。写真や位牌など、馴染みの品を持ち込むことで安心し、落ち着いて過ごせる環境に配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーで設計しており、いたる所に手すりなども設置しており、居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしています。</p>	/	/



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない